

英語科学習指導案

日 時 平成28年6月2日(木) 公開授業 I
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校
 1年A組40名
 会 場 2C2D教室
 授業者 教諭 芳 門 淳 一

【学習者の実態】

【身につけさせたい力】

○多くの生徒が前向きに言語活動に取り組んでいる。
 ○これまでは、主に音読やペアでの対話練習・発表など、インプットに重点を置いた活動の後に、対話を暗記し、対話の一部を入れ替えてスキットをする活動や質問応答を行ってきた。
 ○簡単な自己紹介は、4月の授業の中で実施したが、つながりや流れを考えて3文以上でものや人の紹介することは初めてである。

・既習表現を用いて、与えられたテーマ(自己紹介、自分の好きなもの、大切にしているもの)について簡単なスピーチをする力。
 【イ 話すこと(オ)】
 ・話し手に聞き返すなどしながら、まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る力。
 【ア 聞くこと(エ)(オ)】

1. 単元名 Lesson 3 I Like Soccer (NEW CROWN ENGLISH SERIES 1)

2. 単元の目標

- ①既習表現を用いて自分が紹介したい内容で、コミュニケーションを図りながら自己紹介をすることができるようにする。
- ②好きなものや好きなことを含んだ自己紹介を聞いて、それに対する質問やコメントをすることができるようにする。
- ③一般動詞の肯定文、疑問文、否定文、what を用いた文の意味・構造を理解させる。

3. 単元の評価規準

【外国語表現の能力】

- ①既習表現を用いて自分が紹介したい内容で、コミュニケーションを図りながら自己紹介をすることができる。
- ②文字や符号、語と語の区切りなどに注意して、簡単な英語で自己紹介文を書くことができる。

【外国語理解の能力】

- ①一般動詞を含んだ自己紹介を聞いて、その内容に関する質問やコメントを簡単な英語ですることができる。

【言語や文化についての知識理解】

- ①一般動詞、疑問詞 what を用いた文の意味・構造を理解している。
- ②英語でコミュニケーションを図る際に大切にしたいことを理解している。

4. 教材観

本単元の題材内容は「好きなもの」である。これまでの単元で、「あいさつ」や「人やもの」について学習している。自己紹介、自分の出身や気持ちの表現、また、ものや人の簡単な紹介から、自分の好きなことやスポーツなどについての表現へと、生徒にとってはやや複雑になるが、自分自身の身の回りのことについて英語で表現できることが増え、英語の表現についてさらに興味関心を引き出すことができると考える。

言語材料としては「一般動詞の肯定文・疑問文・否定文」「what + 一般動詞の疑問文」を扱う。これまでに学習している「be 動詞」の文とは異なる点、また、教科書で取り上げられているのは全て他動詞であり、語順にも十分注意が必要である。しかし、文法についての説明は必要最小限にと

どめ、インプットを十分に取り入れた後、実際に自分のことを伝えたり、ペアやグループで質問・応答する等必然性を伴った場面や状況での効果的なアウトプットを仕組み、言語材料の定着を図るとともに学習した表現を適切に活用できる力をつけていきたいと考える。

5. 単元構想

本単元では、自分の好きなものや好きなことを話題に取り入れた自己紹介を行うことを表現活動のゴールに据える。単なる一方的な自己紹介にならないように、話し手も聞き手もお互いに質問を交えた自己紹介になるように段階を踏みながら学習を進めたい。また、自己紹介は初対面の方に行うものであることを踏まえ、最終的には初対面の方々との自己紹介を行わせたいと考える。

言語材料については、音声から文字への橋渡しを意識したい。小学校外国語活動を通して、音声面に対して、生徒はある程度慣れている。そのため、視覚と音声で内容を理解させながら文字へと移行させたい。また、場面や状況を大切に、使用場面を考えさせた言語活動を取り入れていきたい。

6. 単元の指導計画および評価計画

時間	主な学習内容と学習活動	評価 規準	評価方法
1	○前単元までのまとめ ○本単元で学ぶ題材や身に付ける文構造を知る。 ・本単元のゴールを知る。 ・新出語句を知る。		
本時	○一般動詞 have/play/like などを理解し、使う。 ○好きなものや好きなことについて紹介する。 ・好きなものや大切なものの紹介の仕方を知る。 ・好きなものや大切なものについて英語で説明する。 ・自分の好きなものや大切にしているものの写真などを見せながら友達に紹介する。	言知① 表①	・後日ペーパーテスト ・観察 ・後日パフォーマンステスト
3	○一般動詞の疑問文の構造を理解し、使う。 ○一般動詞の否定文の構造を理解し、使う。 ○好きなものや好きなことについて対話をする。 ・好きなものや好きなことについて質問を交えながら対話をする。	言知①	・後日ペーパーテスト
4	○一般動詞と what を用いた文の構造を理解し、使う。 ○好きなものや好きなことについて対話をする。 ・好きなものや好きなことについて what を含んだ疑問文を使いながら対話を深める。	言知① 表①	・後日ペーパーテスト ・観察 ・後日パフォーマンステスト
5	○ GET Part ①～ GET Part ③までの振り返りを行う。 ・教科書の挿絵を参考にペアで Role Play を行う。 ・教科書の挿絵を参考にペアでオリジナル対話を行う。	言知②	・パフォーマンス評価
6	○質問を交えながら自己紹介をする。 ・既習事項を活用しながら、自己紹介したい内容を決め、	表① 理①	・VTR 撮影による評価
7	英語で言えるように練習する。 ・実際に初対面の人に自己紹介をする。	言知②	
8	○自分が行った自己紹介をカードに作成する。 ・文法や語順に注意して自己紹介文を書く。	表② 言知①	・自己紹介文による評価
9	○ Lesson 3 のまとめ ・単元のまとめと単元ペーパーテストを行う。	言知①	・ペーパーテスト

7. 学びの本質に迫る指導について

○コミュニケーションツールとして実際に使用できる実感をもちながら知識を意欲的に習得する生徒の育成

生徒たちに「話したい」「書いてみたい」と英語を使用したいという動機を持たせることが重要であるとする。そのため、どんな場面・状況で使用されているのかを視覚的資料を用い、生徒に推測させるような導入を心掛けたいと考える。また、現段階では間違いを恐れることなく、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を大切にしたいと考える。そこで、パターンプラクティス等で何度も繰り返し発音や模倣をさせながら、自信を持たせつつ言語活動で使用させ達成感を与えるような指導を心掛けたい。

○必要な時に即時に表現を口にするこや、状況に合わせて柔軟に習得した知識・表現を活用する生徒の育成

言語活動を行う際は、パターンプラクティス等で自信をつけさせながらも、決まりきったものにならないように、その場の状況に応じて変化をつけさせたい。相手が話したことや書いたものに対して、感想や質問を考えたり、コメントをしたりすることでつながりのあるコミュニケーションになるようにしたいと考える。また、本単元で習得した知識にだけとらわれないように、既習事項や生徒自身が個々に既する知識も使用できるような言語活動を仕組みたいと考える。

8. 本時の指導目標

自分の好きなものや大切にしているものについて、既習事項を活用しながら Show&Tell を行うことができるようにする。

9. 本時の構想

本時のゴールは自分の好きなものや大切にしているものを既習事項を用いながら Show&Tell を行うことである。生徒それぞれがこの活動を行い達成感や充実感を得るために、しっかりと Small Step を踏みたいと考える。これまでの学習では、小学校外国語活動とのつながりを意識しながら、音声を中心とした学習を進めてきた。また、間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションに関わるように、ペアや学級全体で協力し合うことを意識させてきた。本時でも、視覚や音声を中心とした導入から、ペアやグループ学習を展開し、積極的に発話できるような雰囲気大切にしたい。

導入では Oral introduction によるゴール提示を行う。実際に教師が視覚資料と音声導入を行うことでイメージを持たせたい。教科書の登場人物である Meiling, Emma, Ken の Show&Tell を聞かせ、生徒とのインタラクションを行いながら内容確認を行う。この際、正確な英文の発話は求めず、単語でもいいので英語で反応させたい。教科書本文の挿絵を効果的に用いながら、生徒に内容を把握させるとともに音読練習を通して、自分の好きなものや大切にしているものを紹介する際にはどのようにすればよいかを考えさせる。個人練習やペアでの練習を通して自信を持たせ、ゴールであるグループ活動での Show&Tell に取り組ませたい。また、一方的な Show&Tell にならないように、聞き手には質問やコメントをおこなわせる。話し手がスピーチをしたことに対して満足感を得られるように、できるだけ実際のコミュニケーションに近づけた形で活動させたい。

本時での評価は具体的には行わないが、形成的評価として観察を行う。教科書本文と同じような展開でどのくらいの生徒が Show&Tell を行っているか、行おうとチャレンジしているかを観察する。個々の評価は単元末の自己紹介の場面やオリジナル対話等でのパフォーマンスによって見取る。

10. 本時の展開			
段階	学習内容及び学習活動	時間	指導上の留意点 ■ 学びの本質に迫る指導
導入	0. 3分前学習 ・英語の歌"Hello, Goodbye"を歌う。		
	1. あいさつ ・ペアでお互いに「状態・日付・曜日・天気」等をたずねる。	2	
	2. Routine Work ・Picture Card を用いたパターンプラクティス ・ペアトレーニング	5	■ 視覚的にインプット
	3. ゴールの確認 (Oral introduction) ・本時のねらいを確認する。	3	■ 視覚と音声の導入の工夫
「自分の好きなもの・大切なものを紹介しよう」			
展開	4. Step1 Listening ・Meiling, Emma, Ken の Show&Tell を聞く。	5	■ インタラクションを通して、即時性を意図的に作り出す ■ recast の姿勢を大切にする
	5. Step2 Reading & Practice1 ・本文の内容を確認する。 ・本文を音読練習する。	6	・ Picture を参考に推測させる
	6. Step3 Practice2 & Use ・本文を見ないで、ロールプレイをする。 ・自分の好きなもの、大切にしているものを紹介する練習を行う。(個人) ・ペアで紹介し合う(列を変える)	8	・ Picture を参考に組みませる ・できるだけ文字表記をさせない
	7. Step4 Challenge (4人グループ) ① Speaker は自分の好きなもの、大切にしているものをグループメンバーに紹介する。 ② Listener は、質問やコメントを考える。 ③ 発表後に質問のやり取りを行う。 ・①→②→③を繰り返す。 ・一番、上手だった人を互選する。 ・全体で share する。(数名)	15	・ 活動の流れをしっかりと確認させる ■ 話し手は相手意識を持たせる ■ 聞き手は内容に対しての質問コメント(即時性)
終末	8. まとめ Writing ・自分が紹介したことを書いてまとめる。	3	■ 発話したことを適切に表記することを意識(正確性)
	9. 学びの振り返り(Reflection) ・学びの気づきや活動への姿勢等を振り返る。	3	■ 本時の学び、活動への姿勢を自己評価しながら深める
	10. あいさつ		